秋の訪れ告げる雪

一写一筆　静岡の今　106

季節の移り変わりを自然現象で知ることは多いが、富士山の冠雪を間近に見て秋の到来を知ることができるのは静岡、山梨県民の幸せである。澄んだ秋空に真新しく雪化粧した富士山を眺めると、心が晴れる。

夏が過ぎてから、その年に初めて富士山頂に降る雪は気象の分野では「富士山初冠雪」として記録される。この観測を行い、発表するのは甲府地方気象台（甲府市飯田）である。富士山頂から直線距離で約40キロにある同気象台では、観測・予報担当職員が休日や夜間を通して富士山頂の降雪状態を「目視」で観測している。

1981年から2010年までの30年間の初冠雪平均日は9月30日。今年は9月21日、東海・甲信地方で前日に雨が降り、富士山頂に近い山梨県富士吉田市では職員が目視できたとして、市は「初雪化粧」を宣言していた。しかし、甲府地方気象台の目視では観測されていなかった。

一方、静岡県側から富士山を見守り、さまざまな富士山情報を発信している静岡県富士山世界遺産センター（富士宮市宮町）では、情報発信の「デジタル化」を急速に進めている。今夏はコロナ禍で閉山されたことから、富士登山ができなかった人の来館を期待していた。

ところが、外出自粛ムードもあって、例年の開山期間（静岡県側）にあたる7月10日～9月10日の入館者数は1万6695人にとどまり、前年同期と比べ約7割減に落ち込んだ。このため、動画配信で富士山を紹介する企画やイベント情報などを入手できるメール会員の募集を始めている。

9月28日、甲府地方気象台は「初冠雪」を目視した。ただ愚直に「目視」による初冠雪の観測を続ける気象台と、富士の魅力発信のデジタル化を始めた世界遺産センターと。偉大な山に対する人間の畏敬と英知を、富士はただ黙って見下ろしている。

（前静岡県監査委員・富永久雄）

「初雪化粧」が宣言された日の富士山＝9月21日、長泉町、全日写連・勝又説夫さん撮影